



結成された『宗像大社氏子青年会』の会員面々



戦後の高度経済成長に象徴される日本の豊かさは物質面に偏り、精神的な文化や伝統、歴史などの人としての心の抛り所となる基盤を切り捨ててきた。その結果、日本人としての心だけでなく、自分が何者でありどのような人間であるべきかさえ見失いつつある現在、今一度原点に立ち返り、地域の文化や伝統・歴史について再認識し、次代

三月二十七日、当大社清明殿で『宗像大社氏子青年会』（通称：宗像オガチの会）の設立総会が開催された。

宗像大社氏子青年会 通称 宗像オガチの会 結成

の子供たちへ「日本人の心」を伝える責任を果たすべく、宗像大社の祭事等への奉仕活動に参加しながら、神徳の発揚に寄与すると共に自分自身を見つめ



巣穴のオガチ(オオミズナギドリ)

- 5月祭事暦**
- 毎月1・15日 **月次祭**
午前10時 高宮祭 第二宮・第三宮祭
 - 引き続き 宗像護国神社
月命日祭(1日) 遙拜(15日)
 - 午前11時 総社祭 浦安舞 奉奏(1日) 豊栄舞 奉奏(15日)
 - 5日 午前11時 **五月・浜宮祭**
午前10時30分 浜宮祭 於…宗像市神湊 浜宮
 - 午前11時 五月祭 於…宗像市江口 五月宮
 - 27日 **沖津宮現地大祭**
午前6時 大島港 出港 於…沖ノ島 沖津宮

西暦千九百年、明治三十三年五月十日、宮中賢所大前に於いて当時の皇太子殿下(後の大正天皇)と九条節子姫の御成婚が行われた。この御成婚の御慶事を記念して、翌年明治三十四年より東京大神宮を初めとして全国の神社で神前結婚式が広く行われるようになった。神前で行われる婚礼儀式は比較的新しく思われがちであるが、我が国では古来より家庭の床の間に伊弉那岐命・伊弉那美命の御神名の掛け軸を飾り、その前に米・お酒・塩水を供えお供えした御神酒を三三九度により新郎新婦が戴くことにより夫婦の契りが結ばれるという信仰があった。よって家庭から神社へと式場が移っただけであり、現在の神前結婚式は、家庭における婚儀の形や作法を大成し我が国の伝統的な考え方を継承したものと捉える事ができる。

戦後(一九四五年)よりチャペルウエディングの勢いが増し、現在に至っては六割〜七割にまで達する。

今、キリスト教信者の数は明治時代から一割も増えていないという。だとすると、今の日本人は見た目の華やかさのみで重要な儀式を選んでいることになる。日本人としてやはり祖先から継承されてきた神前に於いての結婚式をできるだけ多くの方に勧めていきたい。(S.F)



神具・装束 結婚式場調度品

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31
電話 福岡(092)651-9456番

井筒 本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入
電話 (075)341-3341(代)~4番
(075)343-3341番

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567



日本人としての心を考え、豊かな宗像づくりに貢献することを目的に設立された。
通称名とされた「宗像オガチの会」の「オガチ」とはミズナギドリ科の海鳥で、学名はオオミズナギドリ（大水難鳥）という。当大社、沖津宮の鎮座する沖ノ島を繁殖地として生息し、天然記念物に指定されている。地面に巣穴を掘り生活し、飛立つ際には木の枝や岩を滑り降りる勢いを利用しなければ羽ばたけない鳥である。こ

の会も宗像大社・宗像地域が、羽ばたくための木の枝・岩の役割を担い、宗像地域が飛躍するよう願いを込めこの通称に決められた。
二月十一日に設立準備委員会を発足し、幾度の会議を重ね今回の発会に至った。本会の会員は趣旨に賛同する満十八歳から五十歳までの者によって構成されており、初代会長には吉武邦彦氏を選出されると共に、十名の役員が選任された。
設立に際しては宗像市の青年を中心に四十一名の有志が集い、設立総会終了後には役員に対して神島宮司より委嘱状が渡され、その後斎館にて賑やかに直会が催された。
今後は、神道及び宗像の歴史・文化伝統についての勉強会を積み重ね、宗像大社の春・秋大祭を始め年間祭事に奉仕しながら、神社と地元住民が一体感を持つる祭事について研究し、宗像大社を中心とした『まちづくり』に貢献し、地域に誇りを持てる人づくりが出来るよう、会員一同情熱に燃えている。

春季大祭斎行



今年は春祭りまでに開花は間に合わなかったが、数日後に満開となった境内の桜

四月一・二日の両日、春季大祭が斎行された。例年であると境内の桜は満開だが、本年は桜の開花が遅くまだ数輪しか咲いていなかったが、春の陽気の中、境内は多くの氏子・崇敬者等で賑わった。
四月一日午前十一時、神島宮司以下神職、氏子奉幣使、鎮国寺立部祐道住職、風俗舞奉仕者、浦安舞奉仕者、総代等が斎館正面玄関前庭に列立し、本殿へ参進。神島宮司が国家鎮護・皇室安泰・五穀豊穡を祈念する祝詞奏上、続いて氏子会を代表し大嶋和敏氏（福津市東福岡）が奉幣詞を奏上した。

その後、保存会の御奉仕により、宮中舞楽の手振りを伝える『主基地方風俗舞』、更に玄海中学校女子生徒による『浦安舞』が見事に奉納され、春を告げる神苑に悠遠な平安絵巻が繰り広げられた。

また祭典後には、祈願殿内の空調設備工事を手懸けられた、(株)九電工 仲摩史朗福岡北営業所長に、神島宮司より感謝状と記念品が手渡された。

翌二日は、午前十一時より二日祭が斎行され、海上安全、大漁満足を祈念された。祭典後、引き続き三月に皇室に献上された『若布』を、二月末から採取された奉仕者に対し、当大社より感謝状と記念



十二単をまとった地元中学生による浦安舞(1日)



主基地方風俗舞



宗像護国神社 春季大祭

品が贈呈された。
その後、高宮、第二宮、第三宮、宗像護国神社へと、官司以下各神職・参列者がそれぞれの祭場へ進み、各所で春祭が斎行された。
宗像護国神社祭では、福岡県護国神社影山官司、宗像・福津両市の遺族をはじめ一〇余名が参列する中、護国の英霊をお慰め申上げると共に、遺族並びに両市民の弥栄が祈念された。

同刻儀式殿に於いては、交通安全全講社祭が斎行され、講員皆様の今年一年の交通安全が祈念された。午後二時からは、本殿に於いて献茶祭が行われ日頃熱心に茶道を学んだ当大社巫女が、南坊流の袱紗さばきも爽やかに御手前を披露した。かくして三日間に亘る春季大祭も無事斎行され、春の一大神事も滞り無く終了した。
この春季大祭であるが、昭和三〇年

代までは、春のこの時期に当大社所蔵の御神宝・古文書を虫干しし一般に公開する祭事が行われていた。これを秋の「放生会」に対し「保存会」と称し、人々の楽しみとなっていた。
昭和三十九年の「宝物殿」竣工に伴い、保存会の呼称も消えていったが、今も昔もこの保存会（現「春季大祭」）の時期は、神郡宗像に春を告げる行事として多くの人々が境内に足を運んでいる。

浦安舞奉仕者

- 北原 しおり
- 嶺 沙知江
- 山口 すみれ
- 吉武 舞

主基地方風俗舞奉仕者

- 石津 典秀 (歌方)
- 岩佐 洋一 (〃)
- 吉田 敏幸 (〃)
- 花田 安輝 (〃)
- 吉武 倫彦 (舞方)
- 中野 正徳 (〃)
- 福崎 武志 (〃)
- 深田 龍介 (〃)



感謝状を受け取る若布採取者(2日)



感謝状を受け取る(株)九電工 仲摩史朗福岡北営業所長 当大社 巫女による御手前(2日・献茶祭)



亜細亜の夜明け

～日本海海戦100周年特別展～

開催の御案内

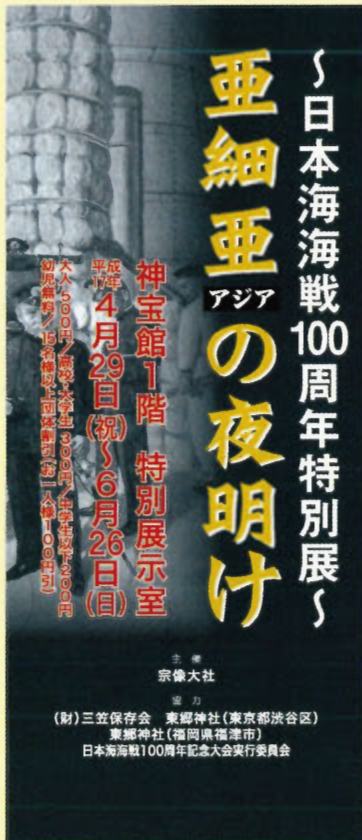
2005年（平成17年）は、日本海海戦100周年にあたります。

100周年を迎えるにあたり宗像大社では、この海戦の歴史的意義等をできる限り多くの人々に再認識していただきたいと願い、『亜細亜の夜明け～日本海海戦100周年特別展』を開催することとなりました。

極めて厳しい情勢下で危機を克服、我国の自存自衛を全うし、国際社会にその地位を高め、今日に至る繁栄の基礎を築いた先人達に学び、自信と誇りを回復し、混迷を続ける現状を打開して活力ある国づくりを図り、併せて日露両国の戦没者を慰霊し信頼と友好を促進することを目的としております。

この海戦での勝利とは、有色人種が白色人種に歴史上初めて勝利した瞬間であり、当時世界中に衝撃を与えました。そして、ポーランド・フィンランドの独立、トルコ革命、アメリカの黒人差別撤回運動、世界各地で欧米からの植民地支配独立運動へと繋がっていききっかけを与えた勝利でもあります。

「皇国（日本）の興廃、この一戦にあり。各員一層奮励努力せよ」と、我国の未来に命をかけて戦った先人達に思いを馳せ、御来館下さいますよう、ご案内申し上げます。



会 場	宗像大社 神宝館
会 期	4月29日（祝）～6月26日（日）
開 館 時 間	9:00～16:30（入館は16:00まで）
拝 観 料	平常通り

大人 = 500円

高・大学生 = 300円

中学生以下 = 200円

幼児 = 無料

団体15名以上で1名に付100円引



三笠船橋の図（三笠保存会所蔵）



Z信号旗

第四十二回「わかめ若布献上の儀」 前々日に「福岡沖地震」発生も、滞り無く 皇室へ若布を献上



献上用の若布を奉製する神職・巫女

三月二十三日(水)神島宮司、漁協関係者らが宮中へ参内し、天皇・皇后両陛下、皇太子・同妃両殿下、賢所、三笠宮家へ、早春の玄界灘産の若布を献上申し上げた。

若布は海洋神事奉賛会(宗像・鐘崎・津屋崎の三漁協で構成)会員が、寒風肌刺す玄界灘で三月一日から採取し奉納、それを神職・巫女が形を整え規定の量を袋に納め、献上用若布として奉製された。

今年の若布は、当初順調に生育していたが、二月下旬の時化により漁(採取)に出ることが出来ず、さらに若布の「芽」も流れてしまった。一時はどうなることか心配したが、海水温度が低かったことが幸いしその後順調に生育、サイズの大きいものは少なかったものの、昨年より色合いも鮮やかで、磯の香りが強い良質のものとなった。

若布は準備出来たもの、献上前々日の二十日(日)午前十時五十分福岡市の北西約一〇キロを震源とするマグニチュード七の強い地震が発生。報道の通り、玄界島を中心に被害が発生した。宗像地方も震度五弱であったが、大きな被害はなかった。

そして上京当日、地震は若布献上に支障なかったが、県民感情に

配慮し例年福岡空港で行う、当大社巫女から全日空(株)客室乗務員へ若布を手渡すセレモニーの中止を決定した。

献上者一行は若布と共に一路空路上京。翌日の二十三日午前十時、神島宮司、随行神職、花田経廣氏、村田繁美氏四人が、坂下門から宮中へ参内。

十時掌典職に神島宮司が若布献上で参内の旨を言上、同掌典を通じて「賢所」へ献上申し上げた。

続いて、大滝侍従へ挨拶に伺い、天皇・皇后両陛下に献上申し上げた。南掌典職案内のもと、神島宮司が記帳を行い、「宮中三殿」参拝の栄を賜り宮中での献上の儀を滞りなく終えた。

宮中を辞した一行は東宮へ向かい、野本東宮侍従を通じて皇太子・同妃両殿下へ献上申し上げ、更に坂倉三笠宮付宮務官を通じて三笠宮家へも献上申し上げ、ここに平成十七年「若布献上の儀」は滞り無く終了した。



若布には目録が添えられ、杉箱に納め献上される

本年の若布献上者は左記の通り。

- 宗 像 大 社
- 宮 司 神島 定
- 権 禰 宜 大塚 宗延
- 宗像漁業協同組合(本所)
- 組 合 長 花田 経廣
- 宗像漁業協同組合(地島支所)
- 代 表 理 事 村田 繁美

尚、本年の若布献上の際し、格別の御支援を賜りました出光興産(株)、全日本空輸(株)をはじめ、多数の方々には紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。

新人紹介

四月一日付で、神職二名、巫女四名、事務員一名の計七名の職員が新たに加わりましたので、左記の通り、ご紹介致します。

①氏名 ②生年月日 ③出身 ④経歴(学歴) ⑤特技 ⑥抱負

神職



- まつばやし たく
① 松林 拓
② 昭和55年11月2日 (24歳)
③ 福岡市西区今宿
④ 中村学園三陽高
奈良大学文学部史学科
國學院大學神道学専攻科

- ⑤ サッカー、合気道
⑥ 社家の生まれではありませんが、国史学を学ぶうちに、日本の歴史は神道なしには語れないと気付き、神職を志し、この度日本でも最古の神社である宗像大社に奉職することが出来ました。今後は、宗像大神様にお仕えし、いろいろ学び、皆様のお役に立ちたいと考えております。



- よしの ただし
① 吉野 理
② 昭和58年2月12日 (22歳)
③ 長崎県壱岐市
④ 壱岐商業
國學院大學文学部神道学科

- ⑤ 剣道(3段)、バレーボール
⑥ 壱岐の芦辺にある男嶽神社の次男として生まれ、今春より宗像大社に奉職致しました。身長182センチ、体重80キロ、足は29センチと大きいだけの不器用な男ですが、大神様のために一生懸命頑張りますので、よろしくお願い致します。



- やまと はるな
① 大和 春奈
② 昭和58年3月25日 (22歳)
③ 宗像市日の里
④ 玄界高
福岡大学経済学部経済学科

- ⑤ テニス、水泳
⑥ 東郷の『大和寿司』の一人娘です。以前から、巫女という職をしてみたかったので、今後一日も早く仕事を覚えお役に立ちたいと思います。



- きはら まさこ
① 木原 晶子
② 昭和61年7月18日 (18歳)
③ 福岡市東区香椎
④ 宇美商業高
⑤ 華道(池坊流)、早起き

- ⑥ 通勤距離が遠いですが、是非宗像大社の巫女さんがやってみたくて奉職しました。今は電車、バス通勤ですが、はやく車の免許を取得し、車で通いたいです。

巫女



- おがた まさみ
① 小方 麻紗美
② 昭和61年11月13日 (18歳)
③ 宗像市池浦
④ 折尾愛真高

- ⑤ ソフトボール、電卓(1級)、ワープロ(2級)
⑥ 周りに巫女さんに憧れている友人が多く、私もその一人でした。まだ何も分かりませんが、一日も早く仕事を覚え、皆様のお役に立ちたいです。



- てらしま ちかこ
① 寺嶋 千賀子
② 昭和61年12月4日 (18歳)
③ 福津市須多田
④ 水産高

- ⑤ 和太鼓、書道(8段)、簿記(3級)
⑥ 他の神社でアルバイトをしていて、巫女になりたいと思いました。理想の巫女さん目指して頑張ります。

事務員



- いしづ のりひで
① 石津 典秀
② 昭和28年3月8日 (52歳)
③ 宗像市吉田
④ 東海大五高、宗像農協

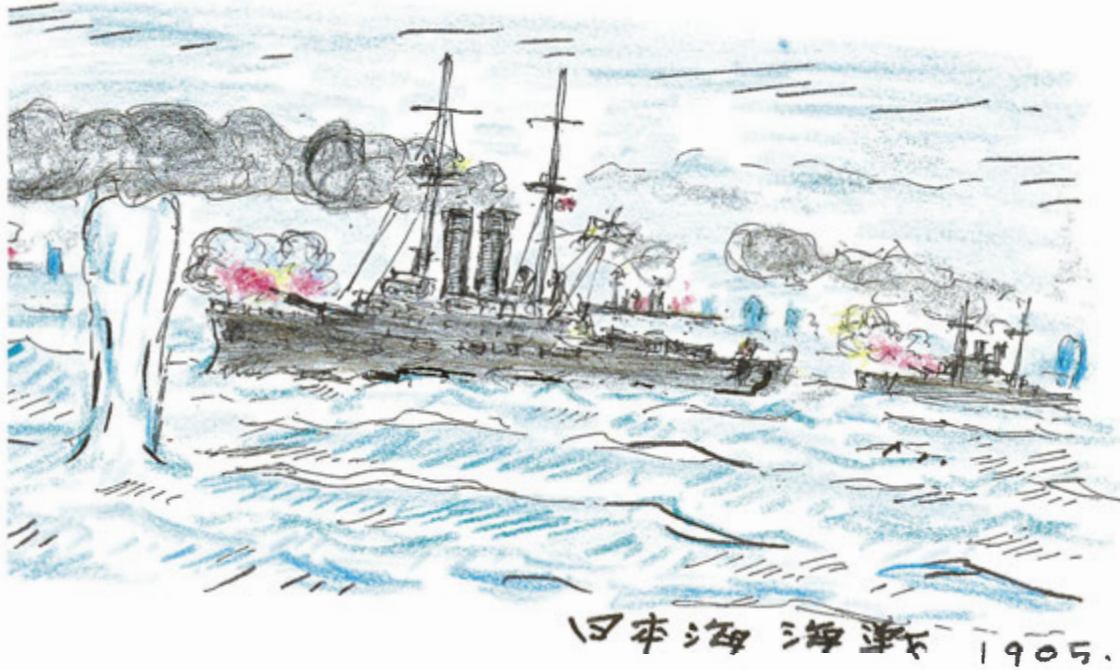
- ⑤ カラオケ
(主基地方風俗舞保存会では歌方を担当)
⑥ 地道にコツコツ努力して、神社のお役に立ちたい。

(続)

漢の寄物

192

いしいただし



資料館で市民から寄贈された書籍を整理していたら、尋常小学讀本巻十二(文部省・明治四三年)があり、それに「日本海海戦」が出ていた。今年はこの大海戦から百年目(一九〇五)にあたり、大社ではその記念行事も行われる。また書店にも関連の書籍も多く目につくようである。全文を載せようと思ったが字数に制限があり、後半は略した。讀本は旧漢字であるため常用漢字に直した。

第二課 日本海海戦

露国が連敗の勢を回復せん為、本国に於ける海軍の幾んど全勢を挙げて組織せる太平洋第二・第三艦隊は、朝鮮海峡を経てウラオストックに向はんとす。我が海軍は初より敵を近海に迎へ撃つの計を定め、全力を朝鮮海峡に集中せしが、遂に之も会

して、世界史上空前なる大海戦となり。

明治三十八年五月二十七日午前五時、哨艦信濃丸は「敵艦見ゆ」と報告す。東郷司令長官は直ちに全軍に出動を命じ、先づ小軍艦をして敵艦隊を沖島附近に誘ひ寄せしむ。

「皇国の興廢此の一戦にあり、各員一層奮励努力せよ」。との信号旗が戦闘旗と共に我が旗艦三笠にかかげられたるは午前一時三十分にして、東郷司令長官は三笠以下六隻の主戦艦隊を率ゐて、上村艦隊と共に先頭にある敵の主力に當り、片岡・出羽・瓜生・東郷(少将)の諸隊は敵の後尾をつく。

敵の先頭部隊は直ちに砲火を開始せしが、六千メートルに近づきて始めて応戦し、はげしく敵を砲撃せしかば、敵の艦列忽ち乱れ、早くも戦列を離るゝものあり。

風号び海怒りて、波浪山の如くなれども、熟練なる我が砲手は物ともせず、打出す砲弾よく命中して、敵艦続々火災を起し、火煙海をおほひて敵を包めり。時に午後二時四十五分、勝敗の数は既に定まれり。敵はかなは

じと、にはかに路を変へて逃れ去らんとせり。我は急に其の前路をさへぎりて攻撃せしかば、敵の諸艦皆多大の損害を受け、続いて我が駆逐艦より二回の水雷攻撃を受けて、敵の両旗艦は遂に沈没し、その他にも相ついで沈没せるもの多し。夜に入りて、

我が駆逐隊・水雷艇隊は砲火をくゞつて敵艦にせまり、無二無三に攻撃せしかば敵艦隊は四分五裂の有様となれり。明るくなれば二十八日天よく晴れて海波静かなり。我が艦隊は東郷司令長官の命により、爵陵島付近に集りて敵を待ちしが、東方に當りてはるかに数条の黒煙を見る。よりに主艦隊及び巡洋艦隊は東方に向つて、其の進路をふさぎ、片岡・瓜生・東郷の諸隊は其の退路を絶ち、午前十一時三十分全く敵を包圍せり。敵今は逃れぬところと覚悟したりけん。ネボカトフ少将は白旗をかゝげ、戦艦ニコライ一世以下四隻を挙げて其の部下と共に降服せり。敵の指令長官ロジエストウエンスキー中將は昨日の戦闘に傷を負ひ、幕下と共に一駆逐艦の漣・陽炎の二隻に追撃せられ、遂に捕へられるゝに至れり(後略)

第五二五回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メット



宗像市 池田 森 龍子

地震に揺れ棚よりころがり落ちし箱夫の癖ある文字書かれあり

〔評〕福岡地方には無いと信じていた私達に衝撃を与えた3月20日の地震。しかし作者はその地震により亡き夫の癖のある文字に会うことが出来た。ミスマツチとも言える邂逅、そこに詩が成立した。

宗像市 東郷 山口 節子

校庭に植えてある木はプラタナスと先づ教へられし小学一年

〔評〕新人生が先づ教えられたのがプラタナス、これも思いもよらぬ組合せの面白さである。

宗像市 大島 杉田 禮子

合併は間近し友への手紙書く村と言ふ字に思ひをこめて

宗像市 大島 越智 治子

百羽奈の鷗は大空かけてゆく春には寒き風の吹く朝

〔評〕杉田さんは大島と言う村の無くなる寂しさを主情濃く詠い。越智さんは、下句を「村の無くなる朝の風に」と詠み替えることも可能だが、去つてゆく鷗たちに託して島に対する愛惜の情と風物を詠っている。

宗像市 曲 天野 玲子

安売りのバナナ買い過ぎ気がつけば果物籠に色変わりおり

〔評〕老いは悲しいなどとは言っていないが、ここにあるのは老の寂しさと、うつろいである。

宗像市 大井 木原 ふさ子

開山より百二十余代とふ寺の鯛口の鈴振れども鳴らず

〔評〕徳川15代が約260年の歴史があることからしても120余代と言えば千年を超える歴史があるのだろう。古刹の由緒ある古き鯛口である。

宗像市 朝野 藤井 浩子

「老人は死ぬんですよ」風邪のわれ医者言葉に愕然とする

〔評〕風邪は万病のものと言葉を知らない作者ではないが、健康にかまけて高を括つていたことの反省と驚きの歌である。

福津市 在自 佐々木 和彦

若き日のごとく立漕ぎすることもなく自転車で坂のぼりゆく

〔評〕原作の二句の破調を直したが、ここには健なるゆえの老いへの移行の寂しさが具体的に詠われている。

福津市 光陽台 香月 照子

病院で見聞させしこと忘れたしわが家の庭に春の雪降る

〔評〕この一首は、見聞きしたものを具体には述べず読む者の想像に委せ、結句に春の雪を持つて来てイメージにひろがりとい行きを与え技巧的である。

浮羽市 浮羽 向 則正

買いおきて車に入れいしストックのドアを開くれば強き香のする

福岡市 南区 井田 有久衣

一人居のつれづれにふと思ひ出す夫歌いいし「同期の桜」

福津市 中央 池浦 千鶴子

ありし日の父に編みたる毛糸帽汗にじみしをそのまましまふ

宗像市 田野 森 つるの

故郷は春潮の遠く千頃よ貝堀りてるし日思ひ出しをり

宗像市 田野 森 甲子

舅が植ゑ姿つくりし庭の梅遠き浄土に香り届けたし

宗像市 日の里 大和 美由紀

晴れて来し朝の光の庭に出て啼く鶯の初音を聞きぬ

宗像市 日の里 石松 知子

冬空に球打つ音をひびかせてグラントゴルフに友と競り合う

宗像市 神湊 安永 久子

かつてなき激震に心おののきぬ娘のぬくもりの腕に身を寄せ

選者詠

ぐづぐと風邪癒えぬ日々新聞に「さくら便り」の載るべくなりぬ

九州は雨でしたかと吉野びと明日の祭りの天気案ず

咲きそめの色うひうひし吉野の馴染みのさくら頬撫でくれて



宗像大社 歌会 俳句作品集(五〇〇)

宗像市 光岡 白土 凌一

桜咲き心もなごむ鳥の声

宗像市 光岡 井上 嘉治

花吹雪浴びて若駒跳ねにけり

宗像市 日の里 花田いつ枝

春宵の背中突き上ぐ余震かな

宗像市 東郷 宗風社俳句会

凍りつく硯の水や事始め

吉田 杏子

冬空に一線引きて飛行雲

田中 雨葉

立春や聾して亀浮き上る

木原 房子

如月や黄砂と花粉相遅れて

編集後記

宮司に随行し、皇居へ行つて参りました。賢所(宮中三殿)参拝の栄を賜り、そこでは大学卒業式以来の再会となる、親友の元気な姿も見る事が出来ました▼戦前は「現人神」、戦後は「国の象徴」と、世間一般で位置付けが様々ですが、戦後生まれで神職となつた私にとっては陛下は国民を代表し、陛下にしか御奉仕できない祭事を司る、「最高の神職」であると思えます▼一切報道されませんが、様々な御公務の中で最も重要にされているのが、神嘗祭に代表される「宮中祭祀」と呼ばれる祭事であり、神代から連続と続けられています。それが外国の王室と一線を画するところではないでしょうか▼生まれて初めて入った皇居、帰福後何かいいことがありそうなの、幸せな気分になったのも、私の正直な気持ちです。(M.O)

発行所 宗像大社社務所

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 伊藤佳和
編集人 大塚宗延
制作 ジーエータップ
印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円